

広島県における幼児教育アドバイザー訪問事業の効果検証 — 3年間の縦断的検討 —

清水 寿代¹・濱田 祥子²・上山瑠津子³・杉村伸一郎¹

The Effect of Early Childhood Education Advisor Visits — Longitudinal Study over Three Years —

Hisayo SHIMIZU¹, Shoko HAMADA², Rutsuko UEYAMA³,
Shinichiro SUGIMURA¹

Abstract: This study aimed to examine the effect of early childhood education advisor visits in Hiroshima Prefecture through a three-year long longitudinal study. The principal of the early childhood education facility and the nursery teachers answered a questionnaire before and after the visit of the early childhood education advisor. The results showed that the number of early childhood education facilities that used early childhood education advisor visits increased in three years. Additionally, early childhood education facilities that used advisor visits three or more times had various consultations. The early childhood education advisor visits were found to be effective to improve the quality of early care and education.

Key words: early childhood education advisor visits, longitudinal study, quality of early childhood care and education

目 的

文部科学省は2016年に幼児教育推進体制構築事業を立ち上げ、地方公共団体における幼児教育推進体制の構築を目指している。具体的には、地域の幼児教育の拠点となる「幼児教育センター」の設置等や幼稚園、保育所、認定こども園等を通して幼児教育の更なる質の向上を図るため、各施設等を巡回して助言等を行う「幼児教育アドバイザー」の育成・配置がある（文部科学省、2016）。

幼児教育センターは、幼児教育の質を向上させるための地域の拠点であり、教育内容や指導方法の研究、保育者への研修機会の提供、市町村や幼児教育・保育施設への助言や情報提供などの役割が期待されている（佐々木、2019）。

一方、幼児教育アドバイザー（以下、アドバ

イザーと略記する）は、幼児教育の専門的な知見や豊富な実践経験を有し、域内の幼児教育施設等を巡回、教育内容や指導方法、環境の改善等について指導を行う者のことであり（文部科学省、2016）、指導主事による指導助言活動とは異なる役割が期待されている（高島、2018）。

本事業は自治体の受託によるものであり、平成30年度に幼児教育センターを配置した自治体は50自治体、アドバイザーを配置した自治体は、205自治体であった（東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター（以下、東京大学と略記する）、2019）ことから、本研究では、全国自治体に配置が進みつつあるアドバイザーの成果に焦点を当てる。

阿部（2020）によると受託自治体は「保育の質」に関して自治体独自の政策の蓄積がある場合や、自治体担当者がその自治体内での「保育の質」に関し、何らかの課題があると認識している場合が多いという。実際に、アドバイザー配置の成果を各自治体担当者に尋ねた研究で

1 広島大学大学院人間社会科学研究科

2 比治山大学

3 福山市立大学

は、その成果として、保育者の資質向上や園内研修の充実が挙げられる（東京大学、2019）など、一定の成果が得られている。

一方、幼児教育施設の代表者及び保育者への調査研究では、園長・施設長の効果認識については、園の自主性の尊重や良い取り組みの後押しに効果があるとの報告や保育者の認識では、アドバイザーの支援内容・資質能力への肯定的な認識が高いことが報告されている（東京大学、2019）。そして、これらの効果の認識に及ぼす要因については、施設類型や園の規模、アドバイザーの訪問回数や一回あたりの訪問人数等が影響していることが明らかにされている（東京大学、2019）。

このように、アドバイザーの成果が示されているものの、短いタイムスパンでの効果検証にとどまっていることから、より長いスパンでアドバイザーの効果を示していく必要がある。また、今後アドバイザーの配置を拡大させるためには、幼児教育施設がアドバイザーにどのような援助を求めているかを明らかにすることやアドバイザーの訪問を受けて、何に効果が見られたのかをより具体的に示していく必要がある。そのようなことから、本研究では、広島県における幼児教育アドバイザー訪問事業の3年間の成果を検証する。具体的には、広島県のアドバイザー訪問事業の実態把握をすることを目的1とし、相談内容と事業の利用回数との関連を示すことを目的2とする。最後に、目的3として、成果の具体を明らかにするために、幼児教育施設の代表者及び保育者の認識の変容について、自由記述による回答を分析し検証する。

方法

本研究は、広島県教育委員会乳幼児教育支援センターで実施された幼児教育アドバイザー訪問事業の訪問依頼書と事後アンケートを利用した。この調査は、平成29年から令和元年まで行われた。本研究は、広島県教育委員会乳幼児教育支援センターからの受託研究であり、データの利用については、全著者が利用を許可された。なお、本研究は、第一著者が所属している研究科の倫理審査委員会の承認を得て実施された。

調査対象者 アドバイザーが訪問した広島県の幼稚園、保育所、認定こども園（以下、園・所）の代表者及び保育者であった。平成29年度は、代表者104名、保育者892名、平成30年度は、代

表者206名、保育者1,647名、令和元年度は、代表者196名、保育者1,869名が参加した。

調査内容

1. 訪問依頼書 内容は、施設番号、所属名、市町、希望する年齢のクラス、訪問希望内容等であった。また、相談項目を10項目設け、該当する相談内容について回答を求めた。相談項目は、①乳幼児理解・乳幼児の姿の見とり方、②教育・保育の内容、③乳幼児への援助や支援、④環境構成、⑤保育記録の取り方・活用の仕方、⑥指導計画・日案等の書き方、⑦小学校との連携、⑧保護者への対応の仕方、⑨「5つの力」の育ちについて・県の施策（プラン）について、⑩特別な支援を要する乳幼児の支援の在り方等について（特別支援学校の教育相談主任の同行の有無）であった。

2. 事後アンケート 施設の代表者及び保育者に事後アンケートを実施した。本研究では、平成29年度から令和元年度の3年間の実態調査を実施するため、3年にわたり共通して使用された項目を分析の対象とした。また、3年のうち2年間継続して使用された一部の項目についても分析を行った。3年間の分析に使用した項目のうち、施設の代表者及び保育者への質問項目は、本事業の効果及び今後の活用に関する評定及び自由記述による項目を使用した（例：本事業は園・所の教育・保育の質の向上に役立つ（代表者用）、アドバイザーの指導・助言はこれからの実践に役立つ（保育者用）、本事業を、今後どのように活用をしていきたいか（代表者用、自由記述）、具体的にどのように生かしていこうと思うか（保育者用、自由記述））。また、施設の代表者及び保育者への質問項目として、平成30年度及び令和元年度に使用された、プランの理解及び事例集の活用に関する項目を使用した。そして、保育者への質問項目として平成29年度及び平成30年度に使用された1項目、受けた研修の内容が明確、を分析に使用した。各項目への回答は、4段階評定（4＝当てはまる、3＝やや当てはまる、2＝あまり当てはまらない、1＝当てはまらない）で行われた。

結果

1. 3年間の事業参加園及びアドバイザーの概要 (1) 事業を実施した市町の件数

本事業の参加数は、平成29年度は202件、平成30年度は278件、令和元年度は313件と増加し

ていることが示された。事業に参加した市町を見ると、3年間を通して、福山市の参加の割合が多いことが示された。平成29年度と比べると平成30年度及び令和元年度は、1つの市町における参加数が増えるというよりも、本事業に参加する新規の市町が増加していることがわかった。

(2) 事業の施設種

表1は、本事業に参加した施設の施設種を示している。平成29年度は、参加事業の半数が公立保育所であったのに対して、平成30年度、令和元年度には、私立保育所、私立こども園や行政等への研修会が増加していることが示された。

表1 事業の施設種等

	H29年度(%)		H30年度(%)		R1年度(%)	
公立幼稚園	49	(24.3)	52	(18.7)	36	(11.5)
公立保育園・所	96	(47.5)	98	(35.3)	82	(26.2)
公立こども園	10	(5.0)	2	(0.7)	7	(2.2)
私立幼稚園	4	(2.0)	10	(3.6)	32	(10.2)
私立保育園・所	12	(5.9)	38	(13.7)	51	(16.3)
私立こども園	14	(6.9)	37	(13.3)	54	(17.3)
研修会	12	(5.9)	31	(11.2)	45	(14.4)
特別支援学校	5	(2.5)	5	(1.8)	3	(1.0)
私立その他	0		5	(1.8)	3	(1.0)
総事業数	202		278		313	

(3) 事業の利用回数と園数

表2は、本事業を1年間に利用した利用回数と園数を示している。平成29年度の総利用園数は128園で、1回だけ利用する園が多かった。平成30年度、令和元年度は平成29年度と比べると総利用園数が増加した。いずれの年度も1回のみ利用した園が多かったが、3回以上利用した園を見ると、平成29年度から令和元年度にかけて増加していることが示された。

表2 事業の利用回数と園数

	H29年度(%)		H30年度(%)		R1年度(%)	
1回	83	(64.8)	100	(54.1)	93	(51.1)
2回	40	(31.3)	60	(32.4)	55	(30.2)
3回	4	(3.1)	17	(9.2)	29	(15.9)
4回	1	(0.8)	1	(0.5)	3	(1.6)
5回	0		0		1	(0.5)
6回	0		0		1	(0.5)
欠損値	0		7	(3.8)		
合計	128		185		182	

(4) 平成30年度及び令和元年度のアドバイザーの人数と訪問回数

表3は、平成30年度及び令和元年度のアドバイザーの人数と訪問回数を示している。平成30年度のアドバイザーの人数は、16名、令和元年度は、18名であった。平成30年度のアドバイザーの訪問回数は合計380回で、令和元年度は、合計396回であった。

表3 アドバイザーの人数と訪問回数

	アドバイザー数(人)	訪問回数(回)
H30	16	380
R1	18	396

(5) アドバイザーの訪問形態

表4は、アドバイザーの訪問形態を示している。アドバイザーの訪問形態は、表に示しているように、5つの形態に分類された。アドバイザーの訪問形態として多かったのは、アドバイザーが園・所に訪問し、午前中に保育参観を行い、午後から園内研修会を実施する1日コースであった。この訪問形態が3年間を通して最も多いことがわかった。

表4 アドバイザーの訪問形態

	H29年度(%)	H30年度(%)	R1年度(%)
自園・所への訪問：保育参観 +園内研修(1日コース)	160 (79.2)	223 (80.2)	229 (73.2)
自園・所への訪問：園内研修 のみ(半日コース)	3 (1.5)	18 (6.5)	21 (6.7)
自園・所への訪問：公開保育	1 (0.5)	7 (2.5)	2 (0.6)
その他：園・所長会	0	1 (0.4)	45 (14.4)
その他：研究協議会、部会、 園外研修	12 (5.9)	29 (10.4)	13 (4.2)
欠損値	26 (12.9)	0	3 (1.0)
合計	202	278	313

2. 本事業の3年間の成果

(1) 平成29年度から令和元年度の代表者の事後アンケートの結果

【本事業の効果と今後の活用について】

表5は、代表者を実施した事後アンケートの2項目の平均値と標準偏差を示している。「本事業は園・所の教育・保育の質の向上に役立つ」

という項目については、4点満点中、3.96～3.99点と3年間ともに高く評価されていることがわかった。

また、「本事業を今後も活用したい」という項目については、4点満点中、3.92～3.99点と3年間ともに高く評価されていることがわかった。

表5 代表者事後アンケート

	H29年度	H30年度	R1年度
本事業は園・所の教育・保育の質の向上に役立つ	3.96 (0.19)	3.99 (0.10)	3.98 (0.14)
本事業を今後も活用したい	3.92 (0.27)	3.99 (0.12)	3.95 (0.23)

(2) 平成30年度と令和元年度の代表者の事後アンケートの結果

【プランの理解及び事例集の活用について】

表6は、代表者に実施した事後アンケートの3項目の平均値と標準偏差を示している。「プランを理解し実践に生かしている」という項目については、4点満点中、3.05～2.97点とやや低い数値であることがわかった。

また、「接続事例集の活用」という項目については、4点満点中、1.84～2.61点と低く評価されていることがわかった。同様に、「教育・保育事例集を活用している」という項目についても2.18～2.75点と低い評価であることがわかった。

表6 代表者事後アンケート

	H30年度	R1年度
プランを理解し実践に生かしている	3.05 (0.73)	2.97 (0.76)
接続事例集の活用	2.61 (0.80)	1.84 (0.98)
教育・保育事例集を活用している	2.75 (0.85)	2.18 (0.99)

注) プランは広島県独自の取組である「遊び学び育つひろしまっ子」推進プランのことであり、ガイドブックとして事例集が作成されている。

(3) 平成29年度から令和元年度の保育者の事後アンケートの分析

【本事業の効果と今後の活用について】

表7は、保育者に実施した事後アンケートの3項目の平均値と標準偏差を示している。「幼児教育アドバイザーの指導・助言はこれからの実践に役立つ」という項目については、4点満点中、3.91点と3年間ともに高く評価されてい

ることがわかった。

また、「幼児教育アドバイザーの指導・助言により、自らの課題等を明確にできた」という項目については、4点満点中、3.76～3.82点と3年間ともに高く評価されていることがわかった。同様に、「幼児教育アドバイザー訪問事業を継続的に受けたい」という項目についても、4点満点中、3.66～3.73点と3年間ともに高く評価されていることがわかった。

表7 保育者事後アンケート

	H29年度	H30年度	R1年度
幼児教育アドバイザーの指導・助言はこれからの実践に役立つ	3.91 (0.29)	3.91 (0.30)	3.91 (0.29)
幼児教育アドバイザーの指導・助言により、自らの課題等を明確にできた	3.79 (0.42)	3.82 (0.41)	3.76 (0.45)
幼児教育アドバイザー訪問事業を継続的に受けたい	3.66 (0.51)	3.68 (0.52)	3.73 (0.49)

(4) 平成29年度、平成30年度の保育者アンケートの分析

表8は、保育者に実施した事後アンケートの1項目の平均値と標準偏差を示している。「受けたい研修の内容が明確」という項目については、平成29年度は4点満点中、3.08点と高かったが、平成30年度は、2.01点と低い評価であった。

表8 保育者事後アンケート

	H29年度	H30年度
受けたい研修の内容が明確	3.08 (0.75)	2.01 (1.01)

(5) 平成30年度と令和元年度の保育者事後アンケートの分析

【プランの理解及び事例集の活用について】

表9は、保育者に実施した事後アンケートの3項目の平均値と標準偏差を示している。「プランを理解し実践に生かしている」という項目については、4点満点中、2.74～2.79点とやや低い数値であることがわかった。

また、「接続事例集の活用」という項目については、4点満点中、1.56～2.19点と低く評価されていることがわかった。同様に、「教育・保育事例集を活用している」という項目に対しても1.80～2.29点と低い評価であることがわかった。

表9 保育者事後アンケート

	H30年度	R1年度
プランを理解し実践に生かしている	2.74 (0.76)	2.79 (0.76)
接続事例集の活用	2.29 (0.83)	1.56 (0.90)
教育・保育事例集を活用している	2.19 (0.79)	1.80 (0.98)

3. 本事業の効果検証

【園・所等からの相談内容（依頼内容）】

表10は、平成29年度から令和元年度の相談内容を示している。これは、アドバイザー訪問依頼書に記載された、10項目（①乳幼児理解・乳幼児の姿の見取り方、②教育・保育の内容、③乳幼児への援助や支援、④環境構成、⑤保育記録の取り方・活用の仕方、⑥保育計画、日案等の書き方、⑦小学校との連携、⑧保護者への対応の仕方、⑨「5つの力」の育成に関して・県の施策（プラン）について、⑩特別な支援を要する乳幼児の支援の在り方等について）から複数回答可で選択した結果を集計したものである。その結果、3年間を通して、乳幼児理解、保育内容、援助や支援、環境構成に関する相談が多いことがわかった。

表10 相談依頼内容と回数（％）

	H29年度	H30年度	R1年度
①乳幼児理解	38 (12.6)	99 (15.2)	123 (18.2)
②保育内容	46 (15.2)	93 (14.4)	107 (15.9)
③援助や支援	51 (16.9)	102 (15.7)	112 (16.6)
④環境構成	68 (22.5)	149 (23.0)	123 (18.2)
⑤保育記録	73 (24.2)	30 (4.6)	39 (5.8)
⑥指導計画	3 (1.0)	18 (2.8)	32 (4.7)
⑦小学校との連携	11 (3.6)	19 (2.9)	23 (3.4)
⑧保護者対応	9 (3.0)	36 (5.6)	25 (3.7)
⑨5つの力	2 (0.7)	53 (8.2)	47 (7.0)
⑩特別支援	1 (0.3)	49 (7.6)	44 (6.5)
合計	302	648	675

【同一園・所等への訪問回数と相談依頼内容の関連性】

表11は、本事業を1年間に3回以上利用した園がどのような相談を依頼していたかを複数回答可で尋ねたものである。その結果、3回以上利用した園は、1つの相談を継続しているというよりも、乳幼児理解、保育内容、援助や支援、環境構成に関する相談をしていることが明らかにされた。

表11 3回以上利用した園の相談内容

	H29 (2園)	H30 (17園)	R1 (33園)
①乳幼児理解	1	7	27
②保育内容	1	11	29
③援助や支援	2	12	28
④環境構成	2	14	25

【園・所等の代表者と保育者間の本事業に対する認識】

表12は、平成29年度から令和元年度にかけての本事業の効果を検証するために、「本事業は園・所の教育・保育の質の向上に役立つ」という質問項目に回答した代表者と「幼児教育アドバイザーの指導・助言はこれからの実践に役立つ」という質問項目に回答した保育者の割合を示したものである。3年間を通して、代表者、保育者ともに本事業が今後の保育の質や保育実践に役立つと評価していることがわかった。

表12 教育・保育の質の向上に役立つ

	H29		H30		R1	
	代表者	保育者	代表者	保育者	代表者	保育者
当てはまる	96.2	91.1	99.0	91.5	98.0	91.1
やや当てはまる	3.8	8.3	1.0	7.9	2.0	8.6
あまり当てはまらない	0.0	0.2	0.0	0.4	0.0	0.1
無回答	0.0	0.3	0.0	0.2	0.0	0.2

表13は、平成29年度から令和元年度にかけての本事業の効果を検証するために、「本事業を今後も活用したい」という質問項目に回答した代表者と「幼児教育アドバイザー訪問事業を継続的に受けたい」という質問項目に回答した保育者の割合を示したものである。3年間を通して、代表者の90%以上が、本事業を今後も活用したいという項目に当てはまると評価している

ことがわかった。一方、保育者も当てはまる、やや当てはまると回答した人が95%以上であることから、本事業を継続的に受けたいと評価した人が多かった。

表13 これからの実践に役立つ

	H29		H30		R1	
	代表者	保育者	代表者	保育者	代表者	保育者
当てはまる	92.3	66.6	98.1	68.5	95.4	74.0
やや当てはまる	7.7	29.6	1.4	26.6	3.6	22.4
あまり当てはまらない	0.0	1.9	0.0	1.5	0.5	1.9
当てはまらない	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.1
無回答	0.0	1.9	0.5	3.0	0.5	1.6

表14は、「本事業を今後の実践にどのように活用するか」という質問項目に、代表者が自由記述で回答したデータを年度別に分析した結果である。データの分析は、テキストマイニング法を用いた。その結果、表のようなテーマが抽出された。平成29年度は、保育者の専門性や資質の向上、園内研修の充実、子どもの姿や力を見るといったテーマが抽出された。平成30年度は、これらのテーマに加えて新たに保育環境の見直しが抽出され、令和元年度には、さらに、保育の質の向上が抽出された。これらのことより、本事業が、代表者の保育に対する新たな視点の増加を促した可能性が示唆された。

表14 今後の実践にどのように活用するか（代表者）

H29	保育者の専門性や資質の向上 園内研修の充実 子どもの姿や力を見る
H30	保育者の専門性や資質の向上 園内研修の充実 子どもの姿や力を見る 保育環境の見直し
R1	保育者の専門性や資質の向上 園内研修の充実 子どもの姿や力を見る 保育環境の見直し 保育の質の向上

表15は、「本事業を今後の実践にどのように活用するか」という質問項目に、保育者が自由記述で回答したデータを年度別に分析した結果である。データの分析は、テキストマイニング

法を用いた。その結果、表のようなテーマが抽出された。平成29年度は、遊びの環境構成、5つの力を育む保育、子どもの姿を見とる保育、コーナーの制作といったテーマが抽出された。平成30年度は、これらのテーマに加えて、気持ちに寄り添う保育、子どもの興味に関心をもつ、保護者への伝え方、一緒に楽しむといったテーマが抽出され、令和元年度には、さらに、自分の保育を振り返るといったテーマが抽出された。これらのことより、本事業が、保育に関する具体的なスキルの学びに加え、自身の保育に対する気づきに貢献している可能性が示唆された。

表15 今後の実践にどのように活用するか（保育者）

H29	遊びの環境構成 5つの力を育む保育 子どもの姿を見とる保育 コーナーの制作
H30	遊びの環境構成 5つの力を育む保育 子どもの姿を見とる保育 コーナーの制作 気持ちに寄り添う保育 子どもの興味に関心をもつ 保護者への伝え方 一緒に楽しむ
R1	遊びの環境構成 5つの力を育む保育 子どもの姿を見とる保育 子どもの興味に関心をもつ 保護者への伝え方 一緒に楽しむ 自分の保育を振り返る

表16は、「今後の実践の参考になったことは何ですか」という質問項目に、保育者が自由記述で回答したデータを年度別に分析した結果である。データの分析は、テキストマイニング法を用いた。その結果、表のようなテーマが抽出された。平成29年度は、子どもを見て行う保育の大切さ、環境構成の見直し・向上、育みたい5つの力、発達段階にあった保育、指導案の書き方といったテーマが抽出された。平成30年度は、これらのテーマに加えて、子どもの興味にあわせた保育、子ども目線にあわせる、保育要領・エピソード記録の書き方、絵本の読み方、

個と集団をつなぐといったテーマが抽出され、令和元年度には、さらに、自分の保育を振り返る、子どもの興味に気づく、子どもの話を聞く、保護者への伝え方といったテーマが抽出された。これらのことより、本事業が、保育の質の向上に貢献している可能性が示唆された。

表16 今後の実践の参考になったことは何か（保育者）

H29	子供を見て行う保育の大切さ 環境構成の見直し、向上 育みたい5つの力 発達段階にあった保育 指導案の書き方
H30	子供を見て行う保育の大切さ 環境構成の見直し、向上 育みたい5つの力 発達段階にあった保育 指導案の書き方 子どもの興味にあわせた保育 子ども目線にあわせる 保育要領・エピソード記録の書き方 絵本の読み方 個と集団をつなぐ
R1	子供を見て行う保育の大切さ 環境構成の見直し、向上 自分の保育を振り返る 子どもの興味に気づく 子どもの話を聞く 保護者への伝え方

表17は、「今後実施したい研修内容」について尋ねた質問項目に、代表者が自由記述で回答したデータを年度別に分析した結果である。データの分析は、テキストマイニング法を用いた。その結果、表のようなテーマが抽出された。平成29年度、平成30年度は、環境構成、子育て・保護者支援（気になる子どもを含む）、専門性の向上、子どもの主体性を育てる保育、育みたい5つの力の具体といったテーマが抽出された。令和元年度には、さらに、保幼小連携やカリキュラムの見直しといったテーマが抽出され、本事業への関心の高さが伺われた。

表17 今後実施したい研修内容（代表者）

H29	環境構成 子育て・保護者支援（気になる子どもを含む） 専門性の向上 子どもの主体性を育てる保育 育みたい5つの力の具体
H30	環境構成 子育て・保護者支援（気になる子どもを含む） 専門性の向上 子どもの主体性を育てる保育 育みたい5つの力の具体
R1	環境構成 子育て・保護者支援（気になる子どもを含む） 保幼小連携 カリキュラムの見直し

表18は、「もっと聞いてみたいこと」という質問項目に、保育者が自由記述で回答したデータを年度別に分析した結果である。データの分析は、テキストマイニング法を用いた。その結果、表のようなテーマが見出された。平成29年度は、環境構成、子育て・保護者支援（気になる子どもを含む）、具体的な実践例、コーナーの作り方といったテーマが抽出された。平成30年度は、指導案の書き方、集団行動について、室内の自然環境についてといったテーマが抽出された。令和元年度には、さらに、週案の書き方、大人数で遊ぶ遊び、小学校のカリキュラム作成についてといったテーマが抽出され、本事業が保育実践に役立っていることが示された。

表18 もっと聞いてみたいこと（保育者）

H29	環境構成 子育て・保護者支援（気になる子どもを含む） 具体的な実践例 コーナーの作り方
H30	環境構成 子育て・保護者支援（気になる子どもを含む） 具体的な実践例 コーナーの作り方 指導案の書き方 集団行動について 室内の自然環境について
R1	環境構成 子育て・保護者支援（気になる子どもを含む） 具体的な実践例 コーナーの作り方 週案の書き方 大人数で遊ぶ遊び 小学校のカリキュラム作成について

考 察

本研究は、広島県におけるアドバイザー訪問事業の3年間の成果を検証することが目的であった。まず初めに、本事業の参加園等の実態を検証した結果、本事業への参加数は3年間で増加し、公立の幼稚園や保育所だけでなく、私立の幼稚園、保育所、認定こども園の参加が増えたことが示された。平成30年度の報告書(東京大学, 2019)では、私立の幼児教育施設への訪問の課題が挙げられていたことから、アドバイザー訪問事業の成果を長期的なスパンで検証することによって、施設種の変化を捉えられたことは一定の成果であるといえよう。同様の成果は、アドバイザー訪問の3年間の調査を報告した福岡県の報告書(文部科学省, 2018)においても見られたことから、これらの自治体が幼児教育施設に働きかける際にどのような取り組みや工夫をしているか等についての検討が今後の課題として残された。

さて、本研究では、アドバイザーへの相談内容と事業利用数との関連を検証し、利用数の多い施設の特徴を明らかにすることが2つ目の目的であった。その結果、3回以上利用した施設は、平成29年度は2園であったが、令和元年度は33園に増加していた。そして、アドバイザーへの相談内容は、特定の相談を継続して依頼しているのではなく、乳幼児理解、保育内容、援助や支援、環境構成に関する様々な相談を依頼していることが明らかにされた。アドバイザー訪問前後での自園の課題の変化を調査した福岡県の報告書(文部科学省, 2018)では、事前に自園の課題として11カテゴリーが挙げられていたものの、訪問後に自園の課題の内容が変わることはなかったと報告されている。そして報告書では、それぞれの園が抱える課題は短期間で解決できるものではなく、長期的なスパンで取り組んでいく必要があると示唆されている。保育者は日々発達する子どもと対峙し、様々な反応を示す子どもたちに柔軟に関わることが求められる。本研究で示された利用数の多い施設は、そのような日常の保育において、自園の課題を明確に意識し、アドバイザー訪問から得られた経験を通して、課題を更に深化させ、職員間の学びの継続の重要性を認識している可能性が示唆された。各施設がアドバイザー訪問を通して保育の質の更なる向上を目指しているのであれば、アドバイザー訪問事業の意義は大きいと言

えるだろう。

本研究の3つ目の目的は、アドバイザー訪問を受けた後の施設の代表者及び保育者の変容を検証することであった。まず、今後の実践への活用に対する代表者の意識の変容を検証すると、保育者の専門性や資質の向上に向けられていた視点が、保育環境の見直しや保育の質の向上というように、子どもの姿に向けられるようになった。これにより、アドバイザー訪問が代表者の意識の変容に寄与していることが明らかにされた。一方、保育者の意識の変容は、すべての項目において認められ、保育に必要なスキルの気づき、子どもを見とる視点、自身の保育に対する振り返りが毎年更新されており、質の高い保育実践への関心の高さが伺えた。同様の結果は、徳島県や福岡県の報告書(文部科学省, 2018)においても見られており、アドバイザー訪問が、保育者の資質の維持・向上だけではなく、保育の質の向上にも役立っていることが示された。

一方、アドバイザー訪問の課題として、保育者からは受けたい研修の内容が明確ではないと評価されていることや広島県が独自で取り組んでいる保育実践事例集などの活用が進んでいないことから、訪問手続きの申請方法やアドバイザー訪問に関する広報、幼児教育関連の知識に関する情報提供等が課題として残された。

引用文献

- 阿部 慶徳 (2020). 文部科学省の事業実施における広域自治体と基礎自治体 ―「幼児教育の推進体制構築事業」を事例として― 自治総研, **46**, 79-99.
- 文部科学省 (2016). 幼児教育の推進体制構築事業 Retrieved from https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/1372594.htm (2021年6月11日)
- 文部科学省 (2018). 採択された地方公共団体の取組について Retrieved from https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/1385617.htm (2021年6月12日)
- 佐々木 織恵・阿部 慶徳・村上 祐介 (2019). 自治体における取り組みが幼児教育の質の向上に与える影響：幼児教育の一元化と幼児教育センターの役割に着目して 東京大学大学院教育学研究科教育行政学論叢, **39**, 87-97.

東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター (2019). 平成30年度「幼児教育の推進体制構築事業の成果に係る調査分析」成果報告書 Retrieved from https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/1414283.htm (2021年6月13日)

高島 裕美 (2018). 「幼児教育の推進体制構築事業」の展開に関する一考察 —北海道における「幼児教育アドバイザー」事業に焦点を当てて— 拓殖大学論集人文・自然・人間科学研究, **40**, 147-170.